

金沢市立朝日小学校
平成 25 年度 学力向上の取組

1 学力等の現状分析

(1) 国語科

自分の考えを条件に合わせて書く力がついてきている。書くことを意識し、作文や日記などを意識的に取り組ませてきた成果と考えられる。しかし、個人差はあるが、漢字やローマ字、敬語表現など基礎的な知識理解にやや課題が見られる。また、「読むこと」では、内容の正確な読み取りに課題が見られ、主語述語の対応をはっきりさせたり、登場人物の考えの変化を捉えたりしながら読むような指導の工夫が必要である。

(2) 社会科

ほぼ基礎基本の知識が定着しており、記述式の問題にも十分対応できる力が身につけている。しかし、自分の考えを社会的重要な用語を取り入れてしっかり説明したり、適切な表現方法で説明したりするまでには至っていない。

(3) 算数科

基礎的な計算処理については概ね良好と言える。記述式の問題には課題が見られ、資料に関連づけた説明や、筋道を立てて論理的に考えていく過程をよりいっそう大事にした指導の工夫が求められる。

(4) 理科

一般的に自然科学に関する知識理解が十分とは言えず、戸外へ出て実際に観察し記録する体験や視聴覚教材を使用した指導の工夫が求められる。また、既習や自分の生活経験と結びつけて思考することに課題が見られる。

(5) 全体的な傾向

昨年度から「書くこと」を重点に指導を続けてきたため、記述式の問題については、意欲的に取り組んでいる。しかし、複雑な問題を直感で捉えてしまうため、必要な言葉を使いながら丁寧に説明することについて十分とは言えない。1対1対応になるため、教師に頼りがちになり、自身の力で解決していく過程に課題が見られる。

2 平成 24 年度後期学力向上の取組内容の検証

(1) 成果

ア ノートに書いて自分の考えを深める、また、理解を確実にすることを全学年で共通して指導した。考えを書く、まとめる、ふりかえるという形を継続して指導することで、教師も児童も課題解決型の学習の流れを意識できるようになり、授業の見通しをもって学習に取り組めるようになった。また、書くことに対する抵抗感も少なくなってきた。

イ 意欲を持たせるための支援として、多様な考えに触れさせるためのアイテムの使用や、単元を通した学習課題やキーワードの設定が有効であることが分かった。また、極小規模校であることを最大限に生かし、本物により近い形で活動や課題を組むことが意欲的な学習を支えていることに改めて気づかされた。

ウ 教室内で児童同士の学びあいの形がとれない本校ではあるが、他学年へ、地域へ、保護者へ、他の学校へといった発信の機会を多く持つようにした。その結果、積極的に学習に関わり、適切な表現の仕方を考える姿が見られるようになった。

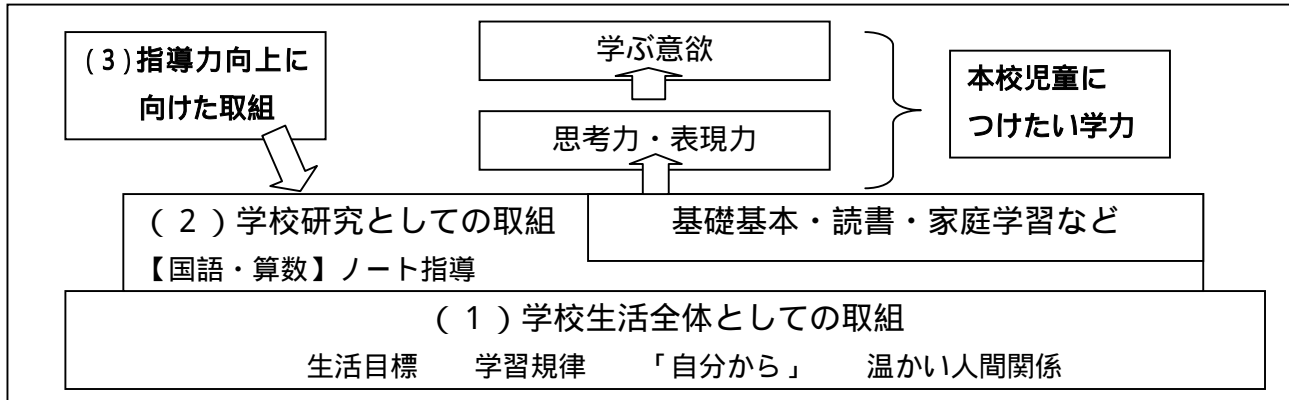
(2) 課題

ア ノート指導をとおして、思考力・表現力の向上を狙ってきたが、思考を整理したり、表現したりするための手段としては、まだ十分にノートを活用できていない現状であった。どのように書いたら思考を深められるのか、教師の側に共通理解した明確な評価観点が無かったためだと考えている。

イ 日常的な関わり合いの少ない本校にとって、交流する場は大変貴重である。さらなる交流の場を求めていく必要がある。E S Dの発信・交流以外にも日常的な取組の中での関わり合いを広げていかなければならない。

3 25年度学力向上の取組

以下のイメージを持って学力向上の取組としていきたい。



(1) 学校生活全体における取組

ア 生活目標の設定

本年度は、昨年度の反省から、年間を通して、時間を守ることを徹底させようという共通理解をもった。45分間の授業時間をしっかりと学習に当てるとだけでなく、時計を見て自分で判断し、行動する意識を持たせ、学習や給食・そうじなどの学校生活にきちんと向き合って生活するようにしたい。

イ 『自分から』の合い言葉

昨年度後期から「自分から」を合い言葉に児童らが自分で考え、行動する姿を見守るよう心がけている。「自分で」は本校児童の学力的な課題でもある。小規模校であるため、自分で思考するよりすぐに知識を与えられる環境にあることが大きな要因である。学校生活の中から、自分の行動を自分自身で決めさせる、考えさせる機会を多く持たせることで学力向上の一助としたい。

ウ 学習規律の徹底

昨年度同様、学習規律の表を掲示し、全職員共通理解のもと、学習活動を進めていきたい。

エ 温かい人間関係作り

少人数であるため、互いの良いイメージも悪いイメージも固定化されがちである。人数が少ないからこそ、個の居場所作りを大切にしたい。各行事ごとには、それぞれの良い面を見つけ、メッセージを送りあう活動(いいねの木)等も活性化させ、温かい人間関係を構築していきたい。

(2) 学校研究としての取組

主題「自ら学び、心豊かでたくましい行動力をもつ児童の育成」

副題 ～思考を高めるためのノート指導を通して～

H25年度は、昨年度に引き続き、書くことに重点を置き、取組を進めていく。その中でも、児童が日々接するノートについて、「自分の考えを深めるためのノート、自分の考えを整理するためのノート」という意識をより強く持ち、ノートの評価を軸に学校研究を展開していきたいと考えている。ノートに書くことで児童自身に思考力や表現力がつき、また児童自身がそれを自覚し、学ぶことが楽しいと感じられる、そんな授業を目指して日々の取組を進めていきたい。

【研究の重点】

重点1 書く力の基礎を養うための工夫

重点2 思考場面での支援項目の明確化

重点3 まとめ、ふりかえり場面での評価項目の明確化

重点4 学びの成果を発信し、確認する場の工夫

(3) 指導力向上に向けた取組

ア 授業をふりかえる時間の確保

年に4回の研究授業をのぞいては、それぞれの授業を参観しあうことは難しい。故に、各人が自分の授業をビデオで撮影し、授業研究をする時間を確保する。(木曜放課後)

イ 外部講師の方々の活用

音楽や図工、理科などでは、専門の方々を招聘し、教師自身も本物に触れ、また児童に還元できる指導の仕方などを学ぶ。

ウ 小小連携、小中連携の取組

森本中学校区の小学校・中学校間で授業交流等を行い、指導力の向上を図る。